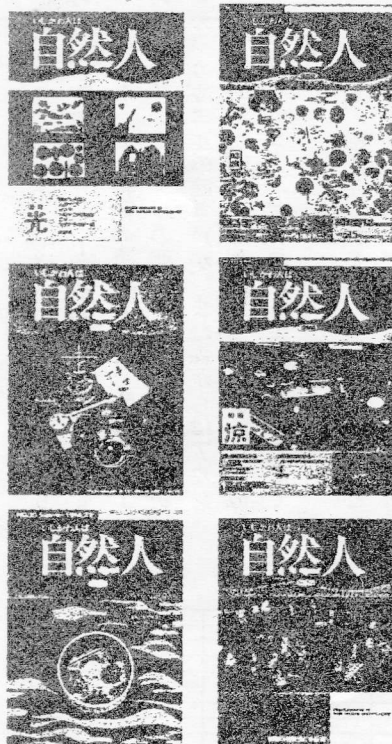


バックナンバーご希望の方は、はさみ込みのハガキに号数と冊数を明記してお申込みください。



創刊号	特集—キノコの王国	第13号	特集—里山を楽しむ
第2号	特集—野鳥の王国	第14号	特集—街を歩く
第3号	特集—恐竜の王国	第15号	特集—奥山に親しむ
第4号	特集—渚の王国	第16号	特集—海に潜る
第5号	特集—温泉王国	第17号	特集—田園に学ぶ
第6号	特集—けもの王国	第18号	特集—潟湖を巡る
第7号	特集—山菜の王国	第19号	特集—土といきる
第8号	特集—白山王国	第20号	特集—水のながれ
第9号	特集—薬草王国	第21号	特集—風のように
第10号	特集—鯨の王国	第22号	特集—雪に舞う
第11号	特集—島を探索	第23号	特集—彩
第12号	特集—川と遊ぶ	第24号	特集—涼
		第25号	特集—音
		第26号	特集—光
		第27号	特集—医王山
		第28号	特集—九十九湾

「自然人」のご紹介

読み辛いことと存じますが、p32-38は後ろのp38から読むようにして下さい。
自然人第29号の記事の転載です。一応、お断り済ですが、7ページも転載しましたので読読数アップに協力しておこうと思います。

この本は、県自然保護課が監修にあたり、石川の自然の紹介を行い、その保護と活用を啓蒙する季刊誌です。ネイチャーインフォメーションのイラストを毎月担当している21期竹中 敏氏をはじめ、どこかにワンゲルOBが登場しています。温泉王国特集の第5号には、結成前の「グループ薙」達のハダカまで（気色悪い？では、某美人姉妹のハダカも）載っていました。

中では、第8号白山王国、第27号医王山が好評だったようです。その医王山特集には、医王の里、福光側のイオックス・アローザスキー場はじめ、最新の医王山の情報が載っていますので、白山・犀奥の次に医王山が懐かしい方は是非ご購読下さい。（リフト終点の夕霧峠では只今、二階建の休憩舎を建設中）

また、自然人「掲示板」のページには、県内で行われる自然に親しむ行事の情報も満載されています。いきなり山は億劫だという方、まずは家族で楽しめることから...といった方には手頃な楽しい自然満喫コースがいくつも紹介されていて利用価値があります。

そのうえ、We Love Shizenjin のコーナーにお便りを出すと、テレフォンカードがもらえて、元がとれてしまうといった何とも嬉しい本なのです！

'94 10月 秋期号 1994年10月1日発行

定価 600円

企画 石川県自然史協会

監修 石川県環境部自然保護課

編集 『自然人』編集委員会

矢島孝昭（代表）

大村明雄 上田哲行

発行人 橋本勝郎

発行・編集制作

株式会社橋本隆文堂

企画出版版©

印刷 株式会社橋本隆文堂

『自然人編集室』

〒921 金沢市増泉4-10-10

株式会社橋本隆文堂企画出版室内

TEL0762-42-6121 FAX0762-43-7945

●講読のお申込みは、書店および編集室で承っております。

●本誌掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。

前号（自然人No28）の「九十九湾と縄文真跡遺跡」の18ページ2段目の「正保九年（一九八七）」は「天保九年（一八三八）」の誤りでした。皆様にご迷惑をおかけしましたことをお詫言し、訂正させていただきます。

植えて育てています。一般の方にも参加してもらって、苗のまわりの下草を刈り払ったあとです。うっとうしい梅雨の季節ですが、水溜りの上の枝にモリアオガエルの卵塊が見つかり、谷川からカジカガエルの鳴き声が、また森からはアカシヨウビンの声が聞こえてきます。夜になると、他では聞けないコノハズクの声もよく聞くことができます。

七月下旬、梅雨が開けると、それまでほとんど姿を見せなかったニホンザルが、野猿広場に毎日ように出てくるようになります。川の冷たい水に入ってカジカやイワナを探したり、水中の石を拾ってカゲロウやカワゲラの幼虫を見つけるのも楽しいでしょう。

秋

蛇谷の秋は早く、八月中旬にはススキが穂を出し、ギリギリスやコオロギ類が盛んに鳴いています。九月になり、オニグルミやアケビ、クリなどが実ると、それを求めて動物たちが集まってきました。カジヤ谷やジライ谷、野営場などは、一面オニグルミの林となっていて、実を運んでいるリスに出会うことも可能です。夏の花が残っていたり、秋の花が咲き出すなど、九月は花の種類が多い時期でもあります。よく目につく花の時期を図にしたので参考にしてください。

十月上旬にスーパール林道の一帯標高の高いところで始まった紅葉が、中宮展示館まで降りて来るのは十月の終わりです。赤や黄にきれいに色づいた落ち葉を探しながら歩道を歩くと、シジュウカラやヒガラ、コガラなどの混群に出会えるでしょう。

中宮展示館周辺の花ごよみ

種名	時期	5月			6月			7月			8月			9月			10月		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
カタクリ		○																	
ミヤマキリシタン		○	○	○															
ヤマブキ		○	○	○															
ニリンソウ		○	○	○															
タニウツギ			○	○															
ヒメウツギ			○	○															
ヤマボウシ				○	○	○		○	○	○									
ミツバハコドリ					○	○		○	○	○									
オカラノオ							○	○	○	○									
ヤマアジサイ							○	○	○	○									
クガイソウ								○	○	○									
オオバギボウシ								○	○	○									
オトギリソウ								○	○	○									
クサボタン								○	○	○									
コウゾリナ								○	○	○									
キンミズヒキ								○	○	○									
クズ								○	○	○									
ツユクサ								○	○	○									
ハンゴンソウ								○	○	○									
クサギ								○	○	○									
マルバハギ								○	○	○									
オトコエシ								○	○	○									
ツリフネソウ								○	○	○									
ゲンノシヨウコ								○	○	○									
アキノノゲシ								○	○	○									
ハクサンアザミ								○	○	○									
ノコンギク								○	○	○									
イワギク								○	○	○									
ゴマナ								○	○	○									
オオアキギリ								○	○	○									

ブナ植栽地下草刈り体験会に参加して

平成六年六月二十六日(日)、石川県白山自然保護センター主催による、白山ブナ植栽地の下草刈り体験会が行われました。

この日の参加者は一般市民二十数名。白山自然保護センターの米山所長から、事業説明を受けた後、センター裏手にあるブナ植栽地へと向かいました。参加者たちは、五人一組となって、ブナと区別がつかないくらい生い茂った草を刈っていきます。ここのブナたちは、平成二年に植栽されたもので、まだ一層くらい。四年の月日をかけてやっとここまで育ったブナも、下草を刈らないと、草の影になって日光があたり枯れてしまったり、ツル草にからまれて奇形のブナになってしまったりするそうです。ブナに対してのおのずと湧いてくる愛情と使命感にかられて、その場にしゃがみこみ、丹念にツル草をとっている参加者の姿も見られました。

「人間は今日まで、営利目的で木材になるスギなどの針葉樹を植え、本来そこに生息するブナなどの広葉樹をなくして、一帯を針葉樹林にしました。そうするとその一帯に生息するのは、針葉樹林に住む生物だけに限られてしまいます。そういった環境の単一化を防ぐための第一歩として、ブナの植栽がなされたのです。」そんな米山所長の言葉を噛みしめながら、自然を慈しみ育むことの大切さを肌で感じる事ができた一日でした。

中宮展示館周辺の自然観察

上馬康生

石川県白山自然保護センター



蛇谷自然観察園のかじや谷広場

中宮展示館へ行くときは、時間の余裕を持って出かけ、ぜひ周辺の自然観察をしましょう。展示館の裏山に設けられた蛇谷自然観察園の歩道を歩いて野猿広場を訪ねたり、展示館前の休憩園地や川のなかで遊んだり、クルミ林のなかの中宮温泉

野営場でキャンプをするなど、自然を存分に楽しむことができます。ここでは、春から秋にかけての自然観察のポイントをいくつか紹介します。

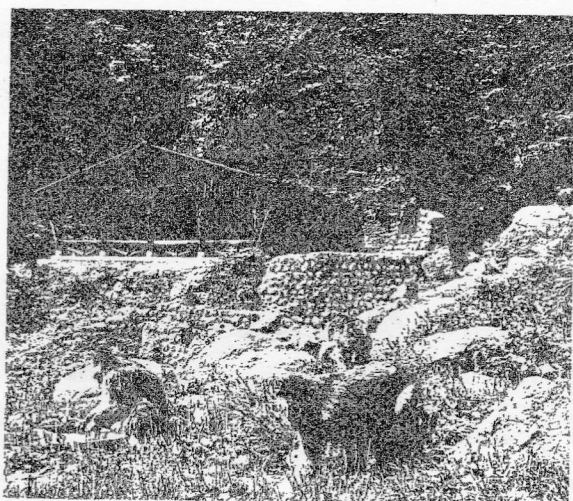
春

深い雪に閉じ込められるため、中宮展示館までの車道が開くのは毎年四月の終わりです。そのころから五月上旬にかけてが、周辺の山の本々が芽吹き始めるころで、ブナの鮮やかな黄緑をはじめとして様々な色合いを見せてくれます。裏山の歩道を行くと、明るい日差しの中にかたくりやキクザキイチリンソウが群生しており、ウグイスやホオジロ、オオルリが方々でさえずっています。

夏や秋には草木に隠れて見えないニホンカモシカも、このころなら見つけることができます。五月中旬になるとヤマブキやタニウツギが彩りを添え、草原にはウスバシロチョウがよく舞っています。

夏

六月になると森は濃い緑に覆われ、蛇谷自然観



野猿広場。サルに会うなら夏休みがベスト

察園の歩道のまわりの草も伸び、目立つ花も少なくなります。そんな中を歩いていると、ところどころ、林の下草が一面に刈り払われていることに気がつくでしょう。もともとブナ林であったところで、それを復元しようと数年前からブナの苗を



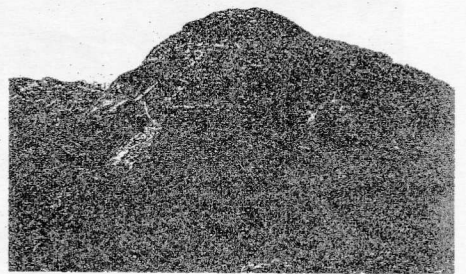


純天然の露天風呂

が、ここはあわてずゆつくり登ります。一帯は、七月初からニッコウキスゲ、イワショウブ、キンコウカ、カライトソウなどが咲く草地です。やがて、ヒノキやコメツガの生える県境尾根を歩くように

ここより、しばらく平らな道が続きます。妙法山が近くに見えてきますが、一度下つて、登り返さなければなりません。細くて急な岩がちの道を二十分ほどで一七五^{メートル}の妙法山に着きます。山頂は狭く、展望は抜群。中でも白山は、三方岩岳から望むのよりうんと近く、迫力があります。また、笈ヶ岳の姿もよい。

の噴泉塔群を訪ねるもので、ベストシーズンは十月中旬からの紅葉の頃。ファミリーハイキングにもおすめのコースです。

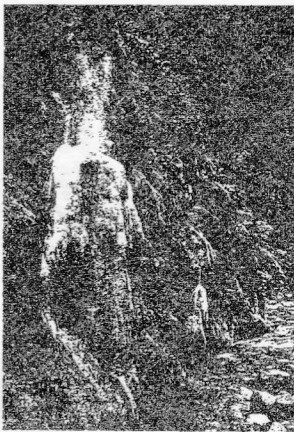


妙法山

なります。樹木の丈が低くなると、三方岩岳の加賀岩ピークに達します。ベンチがあり、眺望は良い。このあたりの紅葉は、九月下旬から十月中旬にかけてが見ごろ。うまくゆけば綾錦の山々を前景に、新雪をいただいた白山や北アルプス連峰が青空に浮かぶという豪華版を見ることができま

しかし、妙法山まで足を伸ばすのなら、のんびりしてはいられません。三方岩岳の飛騨岩からいったん下り、馬狩^{うまがり}荘^{しょうじ}司山を経て、馬狩へ下る鶴平新道を左に分けると、まもなく野谷荘司山です。山頂一帯の岐阜県側は、赤茶けた山肌をさらしています。

紅葉の木々の間を抜けていくと、もうせん平に着きます。オオシラビソなどの林に囲まれた小さな湿地で、名のおり食虫植物のモウセンゴケが多い。夏にはニッコウキスゲやコバイケイソウも咲いてにぎやかですが、秋は静寂そのものです。



岩間の噴泉塔

岩間噴泉塔歩道

新岩間温泉 1:00 → 岩間温泉湯 0:40 → 噴泉塔 1:00
群 このコースは、国指定の特別天然記念物「岩間

そのほか、石川県側のトンネル手前にある「とがの木台」駐車場から、瓢箪山の方へ登る道もあります。往復四十分くらいの手軽なコースで、展望台からは三方岩岳や白山などが眺められます。(T)

新岩間温泉

泉(山崎旅館)から少し道なりに行くと、右に丸石谷林道が分かれるところで柵がしてあり、車はここまで。周辺に三、四台の駐車は可能ですが、いっぱいの場合は旅館から少し下った、休憩舎のあるところに止めよう。

車道を一時間くらいで元湯に着きます。新岩間および一里野温泉の泉源で、野趣溢れる露天風呂(無料)もありますが、これは後のお楽しみ。ここから山道となり、右に岩間道の登り口を見ます。ブナ林の中の快適な道は、やがて急な下りとなつて、噴泉塔群のある中ノ川に降り立ちます。温泉中の石灰分などが沈着してできる噴泉塔は、一年に数十センチ成長するものもあり、川に沿っていくつか点在しています。

帰りの登りはちよつとキツイが、先ほどの元湯か旅館の露天風呂(有料)で、色づいた山を見ながら汗を流すのもなかなかいい秋山の楽しみ方ではあります。(T)

できるでしょう。ここから五分ほど行くと林が途切れ、丸石谷の奥に白山の山頂部が望めるので、ぜひそこまで足を延ばしましょう。帰りは同じ道を下るか、またはあと約十五分先へ進んだところの「しかり場分岐」から、一里野温泉スキー場の山頂へ下る道に行くかのどちらかです。(U)

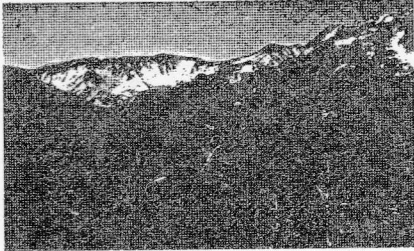
中宮道

中宮温泉 2,100・中宮道標高一二一〇の地点
1:30

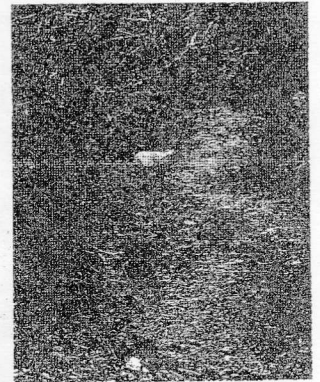
クロユリやハクサンコザクラなど高山植物の大群落。昔、白山が活発に噴火活動をしていたことを示す噴出物や火山地形。ダケカンバやブナの大木がしげる原生林と、そこに生きる多くの野生生物。中宮道は、数ある白山の登山道の中でも特に豊かな自然にふれることのできる道です。しかし、中宮温泉から室堂まで二十と距離があるため、上りも下りも途中にある避難小屋に泊まる山行となり、利用者は限られています。そこで、日帰りで行けるコースをこ

こでは紹介します。

中宮温泉の駐車場に車を置き、橋を渡り、旅館の川向いに付けられた車道を上って行くと、左に大きくカーブしてまもなく、谷が狭まったところに橋が架かっています(標高七三〇)。この湯



中宮道の尾根と白山山頂を望む



登山道に出てきたカモシカ

谷を渡つたところからが登山道の始まりで、最初はコンクリートの階段や急斜面

のまつすぐな上りが続きます。周りを観察する余裕はないかもしれませんが、この付近はカモシカがよく見られるところで、注意深く観察すると道沿いに食痕が見つかったり、カモシカ道が登山道と交差しているのが分かるでしょう。上りきると林が途切れ、高茎草原が広がっています。五月の前半ならカタクリやキクザキイチリンソウなどが咲き、芽吹き始めた若草を求めて、ニホンザルやニホンカモシカなどが現れるところです。しかし、夏は、ススキやイタドリ、ハクサンアザミなど、背丈をはるかに超える高さの草で被われます。その草原が終わったところにトチノキがあり(標高九三〇)、再び林の中の道となります。

標高一〇〇〇を超えると、ブナを主とした大木の林となります。ヒガラやコガラ、ゴジュウカラなどに出会え、六、七月ならエゾハルゼミ、八月ならコエゾゼミがよく鳴いています。また登山道にはテンやニホンザルなどの糞が多いところでもあります。そして秋には紅葉が素晴らしく、倒木にナメコやブナハリタケが見つかるでしょう。急であつた道も、標高一一五〇付近から緩やかになり、まもなく中宮温泉から二・二の表示の

ある「清浄坂」の道標があります。そこから尾根筋の道を十五分ほど進むと、見晴らしのよい小ピークに着きます(標高一二一〇)。中宮温泉から約二時間で上がって来れるでしょう。両側が切り立っているので足元に注意しながら四方を眺めると、東方に湯谷頭、南方に中宮道上部の尾根から白山山頂部、北には冬瓜山や笈ヶ岳などを望むことができます。(U)

三方岩岳・妙法山

三方岩岳 0:50-1:30 妙法山 4:00-4:30

三方岩岳は標高一七三六。これだけの標高を持つ山へ、一時間もかからず登ることができるのは、石川県ではここだけです。それというのも、登り口の標高がすでに一四五〇でもあるからで、いい悪いはさておき、スーパー林道のおかげというわけです。

その登り口は、石川・岐阜県境の三方岩トンネル岐阜側にある三方岩駐車場で、トイレ、水もあります。この先、水はないので、つめ忘れないようにしましょう。いきなり階段の登りが続きます



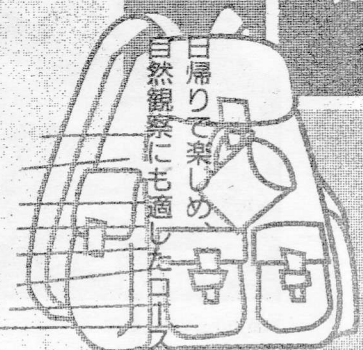
三方岩岳からの妙法山

ハイキングコースガイド

(U) 上馬康生
(T) 梅 典雅

石川県白山自然保護センター
石川県環境部環境政策課

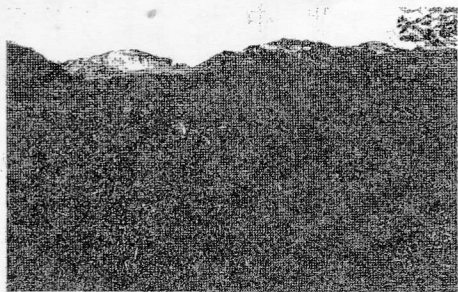
日帰りでも楽しめる
自然観察にも適したコースを紹介



加賀禪定道

ハライ谷登山口 2:40 → 樽新宮 2:20 → しかり場
分岐点 2:00 → 一里野温泉スキー場山頂 2:30

この道は、平安時代に開かれたとされる歴史のある道で、昔は修験道のために使われていました。加賀の国の白山宮（現在の鶴来町の白山比咩神社）から白山山頂へと続いていた道の一部で、



丸石谷の奥に白山山頂部が望まれる

昭和の初めに廃道になってしまったものが、昭和六十二年に登山道として復活したものです。起点となる一里野温泉から室堂までの距離が、十八。余りと長い間、おもに白山からの下山路として一部の人に利用されているだけです。



大木に囲まれた樽新宮

かつては炭を焼くために切られた林で、根元から分かれて数本の幹が伸

かし、四塚山、加賀室跡、百四丈滝など歴史的な場所のみならず、高山植物の大群落や北部白山の山々の展望など、見所の多い道です。ここでは、一里野からの日帰りでも楽しめるコースを紹介しましょう。

一里野から白山スパー林道の方へ車道を上って行くと、上りきったところで道が二つに分かれています。ここから岩間温泉への車道に入り、しばらくしてハライ谷にかかる橋を渡ると、加賀禪定道全体の案内板と登山口の標識があります。コナラやミズナラ林の中の急な上りの続く登山道沿いは、五月前半にはカタクリがびっしりと咲いており、秋になるとクリやオニグルミの実が落ちています。

びるミズナラが目立ち、実際、地面を掘り下げて石で囲った炭焼き釜の跡も見つかります。標高一〇〇〇付近で道は緩やかになり、右に大きくカーブしてスギの植林地の中の階段の上りとなります。標高一二五〇を超えたあたりからはブナ林となり、大木の林がこれから先、標高一五〇〇まで続いています。春から夏にかけてはコルリやヒガラ、キビタキなどがたくさんさえずっており、地面にニホンカモシカの足跡や、ブナの木肌にクマの爪痕がみられます。また振り返ると、ブナの木々の間から笈ヶ岳や大笠山が望めます。傾斜のきつくなった道を一步一步進んでいくと、

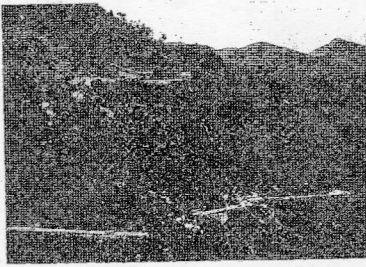
「にちようとぎ」と書かれた道標があります。ここからまもなく樽新宮に着きますが、右側に下っている道を行くと、「御仏供水」と名付けられた冷たい水が流れているので補給しておきましょう。

樽新宮は、ヒノキやコメツガ、ダケカンバなどの大木に囲まれた林の中に小さな社が立っているだけです。昔の修験道の時代には、付近にたくさんある建物があつたといわれています。ハライ谷の登山口から樽新宮までは三時間弱で来ることが

険しい地形と豊かな動植物

白山スーパー林道を通ると分かりますが、非常に急な斜面を削って車道が付けられています。そこは蛇谷と呼ばれる谷で、土地の隆起と長い間の河川の流水や雪崩などによる浸食で、V字谷といわれる険しい地形となつているところです。方々にみられる新しい崩壊跡が、今も盛んに浸食活動を続けていることを教えてくれます。中ノ川や丸石谷など北部白山の他の谷についても同様で、この地域は白山のなかでも特に地形の険しいところと言えます。今から二十年ほど前までは、一部の場所を除いては、ほとんど人の立ち入ることができない場所だったので。

そのおかげで、北部白山には自然のままの森林がまだ多く残っています。なかでも標高一六〇〇メートル付近までの、尾根や比較的緩やかな場所はブナ林となっており、特に雄谷上流や蛇谷上流、中宮道周辺などは、広範囲にわたって良好な林が残っています。またこの地域の地形の険しさと積雪の多さから、急斜面には高木が育たずに高

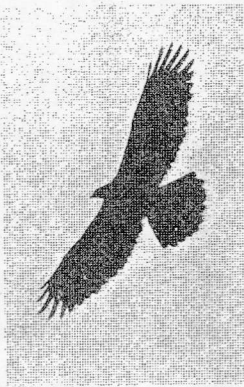


茅草原や低木林となつてい場所が多いのも特徴です。これら豊かな植生があり、人が入り込みにくい地形であったことから、北部白山には動物もたくさんすんでおり、特にニホンカモシカやニホンザル、ツキノワグマな

ど大型は乳類の生息密度が高い地域となつています。ニホンカモシカは多いところでは一畝四方に十二〜十八頭も見つかり、ニホンザルは白山の群れのほとんどがこの地域にいます。また山の鳥のなかでは最大で、その生態系の頂点に位置するイヌワシも、この地域全域にすんでおり、約五つがいが大きな谷ことになわばりを構えています。

保護区の指定

北部白山地域は、白山のなかでも特に優れた自然を有していることから、その自然の維持のためにさまざまな保護区の網がかぶられています。全城が白山国立公園から白山一里野県立自然公園となっており、そのなかでも特に嚴重に景観の維持を図る必要がある地区で、物を作ることや伐採、採集などが厳しく規制されている特別保護地区や、これに準ずる第一種特別地域が広範囲にわたっています。登山道でいえば、加賀禪定道の奥長倉山以南、岩間道の岩間元湯付近より南、中宮道のシナノキ平避難小屋付近より南、北縦走路のある県境の尾根沿い一帯などが特別保護地区となつています。またほぼ全域が指定されているものに、ユネスコの生物圏保存地域、国設鳥獣保護区、白山カモシカ保護地域があり、その他に白山



森林生態系保護地域や、自然保護のための県有地である中宮景観地などがある

ります。

ところで、いろいろな保護区に指定されているから、この地域の自然の保護には問題がないかという、必ずしも安心しておれないこともありまう。たとえば国立公園であっても、良好なブナ林が残っているとところの大部分は、伐採に関してほとんど規制のない第三種特別地域であり、また砂防や治山目的で車道が谷の奥へ延びたり、ダムがつくられたりしているのです。

自然を楽しむ

豊かな自然の広がる北部白山は、昔は中宮温泉や岩間温泉などの湯治客や、岩間道、中宮道などを歩く登山者など一部の利用者を除くと、ほとんど訪れる人のない秘境といわれたところでした。しかしここ二十年ほどの間に、白山スーパー林道の建設や一里野の各種の開発、白山自然保護センター中宮展示館やブナオ山観察舎の建設などで、急速に利用者が増えてきました。夏から秋はドライブに冬はスキーに、たくさんの人々が訪れています。また車道だけでなく、それに続く歩道も整備されたおかげで、三方岩岳や親谷の湯など白山スーパー林道沿線や、岩間の噴泉塔、加賀禪定道などの自然をゆっくり楽しむこともできるようになりました。

せっかくの素晴らしい自然も、車で通過するだけでは十分に味わうことはできません。車を止めて少し歩いてみたり、登山道を半日かけて往復したりすることによって始めて、本物の自然に接することができるでしょう。この特集が、北部白山の自然を楽しむための一助になれば幸いです。

特 集

北部白山

上馬康生

石川県白山自然保護センター

白山の大汝峰より望む北部白山

はじめに

「北部白山」といっても、一般に広く通用する言葉ではないと思うので、はじめにその言葉の説明をしておかなくてはなりません。

白山の優れた自然の保護と適正な利用のための指針として、環境庁が作成した白山国立公園管理計画書というものがあります。そのなかで、国立公園内を自然条件及び利用形態から中部、南部、北部の三つの地域に分け、北部白山地域として、「白山林道を主に利用され、野生動物の生息密度が高く、自然性の豊かな山地を有する地域」とされています。具体的には、国立公園内の吉野谷村、富山県上平村および岐阜県白川村の三方崩山以北の地域となっています。しかし、これはあくまでも行政区分であり、単純にそれだけで山の自然を区分できるものではありません。

ここでは、前記の範囲に尾口村も含め、白山スーパールンド（白山林道）を中心として、南は白山の大汝峰、北は大笠山付近までの範囲の、白山国立公園とその周辺地域を北部白山とすることになります。